

園芸療法実習園の改修計画

造園緑化コース

1. はじめに

私は、専門学校入学後、授業やインターンシップを通じて造園についてより深く関心を持つようになった。そこで、剪定や移植、木工といった様々なことを実践することのできる園芸療法実習園を題材に、これまで学んできた知識や技術を生かしたいと考えた。

2. 改修の位置・改修前の状態

園芸療法実習園は本館の東側、本館を背にして左側に位置する。

実習棟に移動する際や登下校で横を通る場合もあるが、立ち止まって見る人がいない。なぜなら、ハイビヤクシンで覆われているため、足ツボや石で表現されている水の流れに誰も気づかない。また、丸太の足ツボは、木が腐り利用できない。ロックガーデンを眺める通路があるが、ハイビヤクシンが伸びていて通りにくく、ほとんどの人が通っていない。樹木も生い茂っており、美しい景観とはいえない（写真-1、図-1）。

3. 改修方針

園芸療法実習園の改修方針は足ツボを利用しながら、水の流れが表現されている石を見て、疲労回復やリラックス効果などで体調を整え、顔を上げると緑の空間で目の疲れを軽減できる空間にする。

4. 改修内容

(1) 樹木・剪定

車寄せの天井に当たりそうな樹木は下げて、素直な枝を生かし剪定した。

(2) 下草・掘取り

水の流れが見えるようにした。足ツボが利用できるよう切り詰め伸びる向きを揃えた。フェンスの反対側まで大きくなりフェンスを腐らせているパンパスグラスは掘上げた。

(3) 石の流れ

石を洗浄し、水の流れが表現できるように上流に大きめの石、下流に小さめの石を入れた。流れが速くなる幅の狭いところには、碎石を据えた。

(4) 足ツボ

腐っている丸太を新しい丸太に取り換えた。

(5) 除草

ビンカミノールを抜かないように気を付けて除草した。ロックガーデンでは、石が見えるように除草して土を取り除いた。

(6) 植栽

花を育てる空間が欲しいので本館前にも植栽してあるラナンキュラスを植栽し、空間に繋がりをもたせた。コニファーを植えて一体感を出した。

5. 完成

樹木を自然風にして植物の伸びる向きをそろえ、全体的に統一感をもたせることができた。また、足ツボを利用しながら水の流れが表現してある石が見えるようになった。

6. まとめ

今回、園芸療法実習園の剪定や移植、植栽、足ツボの改修を通じて、実践的な経験を積むことができた。学校で学んだ知識と技術、新たな知見を得て実際の場面で生かす良い機会となった。

剪定では切り口が見えないように剪定し自然な形にする技術を実践した。移植では根を切らないよう掘り取る技術を実践し、植物や根の状態を確認しながら適切な管理を行う重要性を再確認した。植栽では植物の選定や配置の重要性を実感し、園芸療法の効果を高めるための環境作りについて考える良い機会となった。さらに、足ツボの改修では利用者がリラックスし、心身のリフレッシュを図るためのスペースを作ることができたので、園芸療法において非常に意義のある取り組みができた（写真-2、図-2）。

これらの経験を今後の仕事に生かしていきたい。



写真-1 改修前



写真-2 改修後

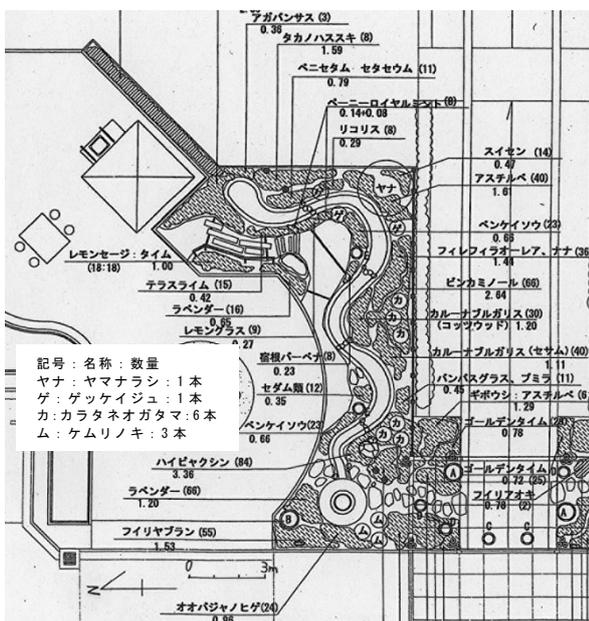


図-1 改修前

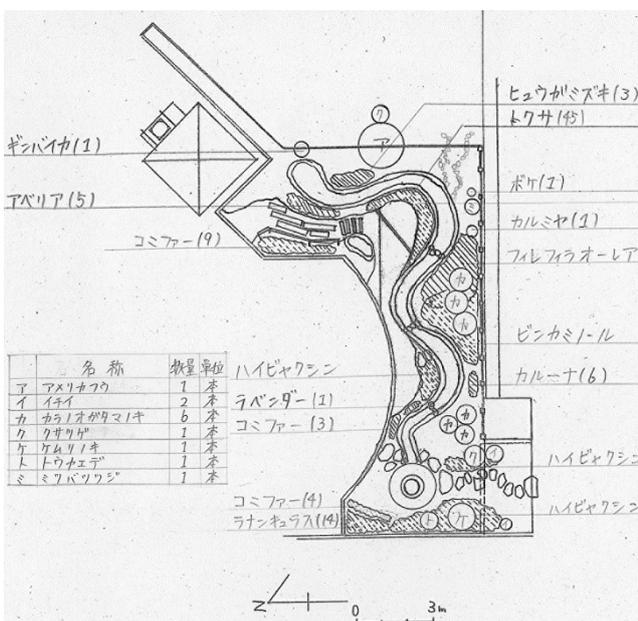


図-2 改修後